

令和5年度 福井県立嶺南西特別支援学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習支援 研究研修	子供たちの生活年齢や発達段階に応じた学習場面を設定し、グループ(学部)ごとに研究活動、授業実践に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の内面やニーズを適切に把握し、教師間で共通理解することにより、課題に対する支援の精度を高めていくことができた。また、本人や保護者の願いに即した目標のもと、個性を引き出し、主体的な学びを展開していくための授業づくりができた。(保護者の満足度100%、教職員の取組100%) ・研究研修の取組では全学部で100%を達成した。今年度は、福井大学 笹原准教授による助言を受けながら、子供たちの内面の見取りに焦点を当てた授業観察・事例検討会を、各学部5～6回実施した。行動面だけでなく内面にも着目し、多面的に子供の姿を捉えようとするのが、結果として主体性を引き出す支援や授業づくりにつながったと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別的教育支援計画や個別の指導計画の活用により、教師間の共通理解や授業との繋がりを図ることで、一人一人の障がい特性や発達段階に応じた支援をさらに充実させていきたい。 ・全教職員の資質・能力向上のため、研究対象となる授業の計画・実践・評価、対象となる児童生徒の実態把握に全教職員が関わって研究活動を進められるよう計画する。また、外部講師による研修の機会や、研究実践の方法や成果について助言をいただく機会をもつ。
教育課程 学習支援 研究研修 小学部	個に応じた支援について教職員間で共通理解を図り、必要最小限の支援で児童が自ら行動しようとする力を引き出す授業の工夫を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、教職員とも目標指数をクリア(100%)することができた。児童一人一人の実態や支援方法について、学部会で共通理解を図ることで、教員それぞれが過度な言葉かけや補助とならないよう意識して支援にあたることができた。また、児童一人一人が考えて行動できるような場面を取り入れた授業づくりに取り組むことができたと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の支援について、引き続き学部会などで検討し、共通理解し合い、実践していく。また、各授業において支援方法や学習内容等を見直し、改善を加えながら、児童が自ら行動しようとする力を更に引き出していけるよう努めていきたい。
教育課程 学習支援 研究研修 中学部	身に付けたい力について生徒自身が考える場を設け、主体的に行動する力を引き出す授業の工夫を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、教職員とも目標指数をクリア(100%)できた。学部会などを通して個々の生徒の実態および生徒に身に付けさせたい力について全員で共通理解を図った。それをもとに授業研究会において、主体的に行動する力を引き出す授業のありようについて事例を挙げて協議し、実践した。また、保護者とも情報共有をし、学校での取組について具体的に伝えるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの子にも主体的に行動する力を引き出す授業が準備されていることの大切さを改めて感じ取った。この気付きを大切に、生徒の実態と目標・支援方法を共有しながら、よりよい授業に結びつくように努める。連絡帳や懇談を通して生徒の日々の様子や成長などを細かく伝えたり、保護者の思いを丁寧に聞き取ったりしていく。
教育課程 学習支援 研究研修 高等部	学習の成果や個人の考えを発表する場、卒業に向けて自分に必要なことを考える場を設定し、生徒が目標と使命感をもって活動できる授業の工夫を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・教職員ともに目標指数をクリア(100%)できた。授業や各活動を通して習得したことや感想、今後の目標を口頭やポスターなどで発表する場をもつことができた。また、学校生活全般において生徒が主体となり、自分の役割に責任をもって活動できるような具体的な指導支援をすることがおこなわれてきたと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士の関わりや話し合い活動、発表の場を今後も積極的に設け、自分に自信をもち、責任をもった言動ができるような場面を設定していく。また、全員で情報共有、共通理解し、保護者や各機関とも密に関わりながら、生徒の卒業後のより豊かな生活を想定した支援ができるよう努める。
生徒支援	児童生徒の実態に応じた学校行事や委員会活動、部活動の企画・運営を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事を昨年度の反省を踏まえつつ安全に運営することができた。5月開催の体育大会は保護者96%、教職員100%、全校での舞台鑑賞のやまも祭は保護者94%、教職員100%の満足度を得ることができた。一方、ごく少数ではあるが、日程の拡大を望む声や座席等の改善に関する意見があり検討が必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会とやまも祭は児童生徒の健康面や安全面を考慮しつつ、満足度の高い行事開催を目指していく。また、やまも祭の会場の椅子席の設置や発表学部の保護者の優先席等の設置を検討していく。
	日々のクラス活動などを通じ、自分自身を大切にすること意識や友達を思いやる意識を高めることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・満足度は保護者98%、教職員100%と目標指数をクリアできた。各学部内において、児童生徒の人間関係のトラブルがないか毎月聞き取りを行い、いじめ等の早期発見、早期対応に努めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達関係のトラブル防止に向け、保護者とは連絡帳等を通じて情報共有を行い、教員間は学部会や運営委員会を通じ情報共有し縦横の連携の中で問題の早期の発見、対策、対応を心がける。
進路支援	進路面談等で本人や保護者のニーズを聞き取り、それぞれの目標を意識した実習が行えるよう支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は95%、教職員は100%とクリアできた。新しいB型事業所の見学や実習を積極的に取り入れた。また、卒業生の進路先やハローワークの求人票を手掛かりに、希望する職種の実習先を増やすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用率の改定等により、障がい者雇用に関心をもつ企業が増加傾向にある。引き続き、関係機関を通じて情報収集や情報発信に努め、本校の生徒が希望する分野について、進路開拓を進めていきたい。
	実習先の情報や福祉サービス等の進路情報を積極的に提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は92%、教職員は100%とクリアできた。企業施設見学会には、予想より多くの方に参加いただいた。見学の必要性を強く感じている。卒業生が働く様子も見ることができ、卒業後の働くイメージをもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の進路先や障がい者雇用に関心をもっている企業について、方法等を工夫しながら見学先を広げていきたい。福祉制度や卒業後の支援体制について、保護者や教員対象に情報を提供していきたい。
保健管理	保健管理(感染症予防を含む)に対する意識の向上と、日常生活での習慣化へ向けた取組を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・教職員とも100%と、目標指数をクリアできた。朝の健康観察や手洗い等の感染症予防を継続しつつ、学校内外での健康・安全に配慮して、児童生徒の最適な取組について検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な学校生活を目指し、毎日の健康チェックや衛生的な生活習慣作りを支援していきたい。また、交通安全教室や避難訓練等を通じた安全教育のあり方について検討し、実践していく。
	地場産物を活用した学校給食を基本とし、食に関する活動の充実を目指して、食育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は96%、教職員は100%と、目標指数をクリアできた。地場産物を活用した学校給食を提供し、食育を実践することができた。さらに、工夫していくことで食育を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒へより安心安全な給食の提供を引き続き心がける。給食だよりで福井の郷土料理や地場産物等、食に関する情報を発信することに加え、給食の時間に行事食や食材の紹介等も実践していく。
PTA連携	地域社会の状況を考慮するとともに、参加しやすい日程や内容を検討し、会員相互の交流が深められるようなPTA行事の企画・運営に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者96%で目標指数90%を超えることができた。夏休み生活支援事業(フライングディスク・ポッチャ)、親子行事(サーカス・若狭ウインドアンサンブル演奏会)、関西電力の皆さんとのクリスマス会は、地域の方々の協力も得ながらレクリエーション活動を実施することができた。また、どの学部の子供も楽しめる企画を用意することができた。学部ごとの座談会の代わりに福祉サービスの講演会を実施することができ好評であった。奉仕作業では、会員同士の交流を図りながら駐車場の白線引きができた。2学期に行事が集中したことは課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期に行事が集中しないように講演会は1学期に行いたい。レクリエーション活動については、今後も若狭ウインドアンサンブル等の地域の団体や県スポーツ協会の協力も得ながら、会員のニーズに沿うような活動を企画していきたい。
	会員のニーズを理解し、行事の報告や地域の情報等を分かりやすく伝えられるPTA広報誌の制作に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、教職員共100%で目標指数90%を超えることができた。学校行事(体育大会、学校祭等)や学部別の活動(校外学習、現場実習、修学旅行等)、部活動、PTA活動(夏休み生活支援事業、奉仕作業等)等について広く情報提供ができ、高評価を得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、コロナ禍前のように予定していた行事や活動がすべて行われ、記事に取り上げるものがたくさんあり充実した紙面になった。今後も必要な情報を分かりやすく伝えられるよう紙面の工夫をしていきたい。